

2. 診療相談

(1) 一般入所の概要

本年度の特徴

一般病院への入院と同様で、おもに小児整形外科領域の手術を受けるための入所が多く、対象疾患として先天性股関節脱臼、先天性内反足、大腿骨頭すべり症、ペルテス病、脳性麻痺など多岐にわたる。近年増加傾向にある。また、整形外科、耳鼻科において短時間の小手術を行う場合、本人、家族の負担の軽減のため、日帰り入所も行っている。

(2) 外来患者の概要

診療予定表(22.4.1現在)

受付 午前8時30分～午前11時30分

午後1時10分～午後3時00分

	月		火		水		木		金		備 考
	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	
整形外科	○	○	○	○	○		○				月曜午後は第1、3週のみ
小児科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
精神科				○				○	○	○	
耳鼻咽喉科	○	○	○	○	○	○	○	○			水曜日は第2、4週のみ
眼科					○						第1、3水曜 午前のみ
泌尿器科						○					第2、4水曜 午後のみ
歯科			○	○	○	○	○	○	○	○	

年間外来診療件数(4.1～3.31)

		19年度	20年度	21年度
医 科	整形外科	4,409	4,472	4,205
	小児科	6,184	6,895	7,580
	耳鼻咽喉科	2,637	2,688	3,058
	精神科	1,919	2,240	2,306
	眼科	516	564	529
	泌尿器科	98	108	84
歯科		3,297	3,291	2,919
訓 練	理学療法			
	作業療法			
	言語療法			
	リハビリテーション科	12,634	14,014	13,535
計		31,694	34,272	34,216

年間新患状況(4.1~3.31)

病類別構成

病 類		19年度	20年度	21年度
骨・ 関節疾患	骨系統疾患	3	1	0
	筋性斜頸	2	2	0
	先天性股関節脱臼	34	25	15
	先天性多発性関節拘縮症	1	1	2
	脊椎変形	5	5	7
	下肢疾患(足部を除く)	41	27	20
	足部変形	20	19	21
	その他	13	17	19
脳性 麻痺	脳性麻痺	34	39	24
発達 障害	精神発達遅滞	85	126	146
	運動発達遅滞	25	13	12
	精神運動発達遅滞	3	0	2
	広汎性発達障害	92	128	97
	その他	61	38	50
性 疾 患	てんかん	14	19	13
	その他	0	0	1
後 遺 症	頭部外傷	1	2	0
	脊椎損傷	0	1	1
	神経感染症	4	5	4
	無酸素性脳症	8	5	6
	脳血管障害	4	3	3
	末梢神経損傷	0	3	0
先 天 異 常	脳奇形	2	4	2
	二分脊椎	4	2	0
	奇形症候群	5	0	4
	染色体異常	8	10	11
	その他	0	1	3
疾 患 進 行 性	筋疾患	2	4	3
	脊髄・神経疾患	0	0	0
	その他	0	2	0
言 語 聴 覚 障 害	特異的言語発達	84	42	19
	機能性構音障害	32	42	49
	難聴	80	85	77
	吃音	1	4	0
	その他	0	0	0
そ の 他	整形外科	23	22	24
	小児科	40	20	18
	精神科	42	50	28
	耳鼻咽喉科	30	26	24
	眼科	9	15	7
	泌尿器科	0	0	4
	歯科	39	84	52
合計		851	892	768

・年齢別構成（歯科を除く）

	19年度	20年度	21年度
1歳未満	99	84	64
1歳	82	83	68
2歳	80	80	68
3歳	135	145	142
4歳	46	69	63
5歳	57	59	66
6歳～12歳	164	172	155
13歳以上	149	117	90
計	812	808	716

・居住地別構成（歯科を除く）

	19年度	20年度	21年度
福島市	78	72	63
二本松市	40	21	47
郡山市	278	288	225
須賀川市	47	53	41
白河市	30	30	32
会津若松市	34	26	22
喜多方市	14	9	5
相馬市	4	1	2
原町市			
いわき市	17	29	28
田村市	11	14	11
南相馬市	24	23	18
伊達市	22	9	13
本宮市	43	51	48
伊達郡	14	10	6
安達郡	11	17	22
岩瀬郡	9	12	11
田村郡	25	17	14
石川郡	20	18	11
西白河郡	20	27	20
東白川郡	11	19	28
耶麻郡	13	12	13
河沼郡	8	6	4
大沼郡	9	4	4
南会津郡	5	10	2
相馬郡	0	4	0
双葉郡	13	19	18
県外	12	7	8
計	812	808	716

(3) 整形外科

本年度の特徴

福島医大との連携のもと、福島県の障がい児医療、小児整形外科医療の中核としての役割を担っている。小児整形外科全般にわたる外来・入所治療、手術療法を行っている。特に小児股関節、軟部組織の異常の診断においては従来のX線撮影の他、侵襲の少ない超音波（エコー）を取り入れるようになった。

年間診療件数

19年度	20年度	21年度
4,409	4,472	4,205

疾患別初診件数

	19年度	20年度	21年度	
脳性麻痺（リスクを含む）	25	30	23	
その他の脳原性疾患	13	8	13	
運動発達遅滞	41	30	20	
精神遅滞	12	5	4	
足変形	25	19	27	
先天性股関節脱臼	23	15	8	
臼蓋形成不全	11	9	6	
開排制限	6	2	2	
染色体異常	ダウン症候群	9	8	11
	その他の染色体異常	0	1	2
下肢変形	14	9	14	
歩容異常	3	9	4	
四肢奇形	6	3	3	
手指変形	1	3	0	
筋性斜頸	2	3	1	
脊椎側彎症	6	10	9	
ペルテス病	7	5	8	
大腿骨頭すべり症	3	6	3	
二分脊椎	4	3	1	
骨系統疾患	1	2	0	
進行性神経・筋疾患	1	4	3	
先天性多発関節拘縮症	3	0	1	
脊髄損傷	0	0	0	
頭部外傷後遺症	0	2	0	
その他	59	54	51	
合 計	275	240	214	

疾患別手術件数

	19年度	20年度	21年度
脳性麻痺	48	21	11
先天性股関節脱臼	16	10	8
先天性内反足	6	4	9
筋性斜頸	2	0	1
四肢外傷後遺症	1	2	0
二分脊椎	6	3	3
先天性多発性関節拘縮症	1	2	3
先天性奇形	0	0	0
大腿骨頭すべり症	8	8	9
ペルテス病	8	5	9
滲出性中耳炎	4	1	0
その他	9	19	18
計	109	75	71

補装具処方数

	19年度	20年度	21年度
義肢	1	3	1
上肢装具	2	1	0
体幹装具	4	5	8
下肢装具	207	199	236
ペルテス病装具	4	4	3
先天股脱装具	5	5	5
内反足装具	12	10	13
車椅子	66	74	104
電動車椅子	2	1	5
座位保持装置	78	72	87
歩行器	11	13	19
頭部保護帽	0	2	8
歩行補助杖	2	2	1
その他	3	3	6
計	397	394	497

(4) 小児科

本年度の特徴

週1回、福島県立医科大学附属病院小児科からの支援を得て、外来診療を行っている。センター内での耳鼻咽喉科、発達障がい者支援センター（精神科外来を含む）の専門性の特化が進み、少子化の時代にもありながら、初診数、相談件数ともに減少には至らず、発達遅滞を含む、発達障害中心の外来となっている。一方で肢体不自由、先天性疾患、後遺症障害等はほぼ横ばいである。

年間診療件数

19年度	20年度	21年度
6,184	6,895	7,580

疾患別初診件数

	19年度	20年度	21年度
脳性麻痺（リスクを含む）	22	25	15
精神遅滞	78	136	138
運動発達遅滞	23	9	15
けいれん性疾患	16	13	15
広汎性発達障害	70	98	76
LD・ADHD	16	5	6
頭部外傷後遺症	1	1	0
神経感染症後遺症	4	5	10
無酸素性脳症後遺症	3	2	2
脳血管障害	6	7	3
脳奇形	5	3	3
二分脊椎	1	1	1
奇形症候群	11	6	4
染色体異常	8	8	12
神経・筋疾患	3	3	5
言語発達遅滞	30	36	22
機能性構音障害	4	18	23
難聴	3	2	7
その他	66	44	28
計	370	422	385

(5) 耳鼻咽喉科

本年度の特徴

平成17年度からST4名になったことに伴い、昨年に比し診療件数が増加しつつある。難聴児の言語訓練と聴覚管理が主体である。

年間診療件数

19年度	20年度	21年度
2,637	2,688	3,058

患別初診件数

	19年度	20年度	21年度
難聴(疑いを含む)	138	76	153
機能性構音障害	27	30	41
耳介外耳道奇形	1	3	7
言語発達遅滞	25	46	18
口唇・口蓋裂	0	0	1
耳垢栓塞	12	0	6
中耳炎・鼻炎・アレルギー性鼻炎	13	9	19
副鼻腔炎	4	1	6
鼻咽腔閉鎖不全症	0	0	0
その他	12	18	77
計	232	183	328

(6) リハビリテーション科

本年度の特徴

平成19年度から新設した。初めに診察をしてから各種訓練へ入る。

年間診療件数

19年度	20年度	21年度
12,634	14,014	13,535

理学療法

本年度の特徴

患者1名に対して月3.1回の実施回数となっている。

ア 新規処方数

19年度	20年度	21年度
114	111	83

イ 疾患別対象児数

	19年度	20年度	21年度
脳性麻痺（リスクを含む）	162	168	157
その他の脳原性疾患	71	87	86
二分脊椎・脊椎疾患	8	13	12
進行性神経・筋疾患	20	22	20
骨・関節疾患	4	6	9
染色体異常	32	32	28
（精神）運動発達遅滞	63	55	59
その他	9	11	14
計	369	394	385

ウ 訓練開始時年齢

年 齢		19年度	20年度	21年度
0歳	0～5ヶ月	19	18	18
	6～11ヶ月	83	81	77
1歳	12～17ヶ月	72	73	73
	18～23ヶ月	51	53	57
2歳		34	39	36
3～5歳		50	58	62
6～12歳		51	61	54
13歳～		9	11	8
計		369	394	385

作業療法

本年度の特徴

患児1名に対して月0.76回の実施回数となっている

ア 新規処方数

19年度	20年度	21年度
106	152	103

イ 疾患別対象児数

	19年度	20年度	21年度
脳性麻痺（リスクを含む）	74	75	68
その他の脳原性疾患	50	58	48
二分脊椎・脊椎患者	2	3	1
進行性神経・筋疾患	3	2	2
骨・関節疾患	4	4	2
染色体異常	25	29	27
（精神）運動発達遅滞	86	111	112
広汎性発達障害	34	91	133
その他	11	15	16
計	289	388	409

ウ 訓練開始時年齢

		19年度	20年度	21年度
0歳	0～5ヶ月	0	0	0
	6～11ヶ月	6	5	4
1歳	12～17ヶ月	13	18	16
	18～23ヶ月	21	27	26
2歳		78	93	94
3～5歳		137	179	205
6～12歳		32	63	62
13歳		2	3	2
計		289	388	409

言語聴覚療法

訓練と検査を含めた新規処方数新規処方と継続を含めた対象児数ともに著変はなかった。延件数は5、340件であった。

ア 新規処方数

19年度	20年度	21年度
391	473	469

イ 言語障害別対象児数

		19年度	20年度	21年度
脳性麻痺（リスクを含む）		24	45	46
精神（運動）発達遅滞		192	282	270
聴覚障害	難聴	324	364	400
	（人工内耳）	（33）	（36）	（41）
広汎性発達障害		219	199	223
その他の発達障害（ADHD・LDを含む）		61	69	69
機能性構音障害		62	62	72
吃音		11	7	12
てんかん		12	13	20
染色体異常		35	38	29
口唇・口蓋裂		6	4	11
その他の先天異常		22	21	21
後遺症		11	3	5
進行性疾患		1	1	2
その他		15	46	31
合 計		995	1,154	1,211

心理検査・療法

本年度の特徴

小児科のオーダーによる発達評価が心理検査のかなりの部分を占めている。対象は身体的な合併を伴う場合も含め、MR、広汎性発達障害、ADHDなどの発達障害を有する児であり、おおよそ半年～2年の間隔で実施している。

心理療法はほとんどが心の発達相談室（精神科）のケースで、対象疾患は緘黙、軽度発達障害の二次障害などである。

		19年度	20年度	21年度
心理検査	知能検査	579	644	758
	発達検査	615	789	760
	性格検査	8	2	0
	その他	492	619	750
心理療法	集団	0	0	0
	個人	53	26	18
	箱庭	11	8	6
	その他	0	0	0
計		1,756	2,088	2,292

(7) その他の診療科

歯科

担当医 療育センター歯科協力会

本年度の特徴

歯牙齲蝕（齲蝕症・歯髄炎・根尖性歯周炎）が中心で来院することが多いが、最近では歯周炎（歯肉炎・歯周炎）で来所することが増えている。

ア 年間診療件数

19年度	20年度	21年度
3,297	3,291	2,939

イ 疾患別初診児数

	19年度	20年度	21年度
外傷	0	1	0
齲蝕症	48	54	39
歯髄炎	0	0	2
根尖性歯周炎	0	0	0
歯肉炎	19	17	26
歯周炎 9	1	0	0
咬合異常	0	0	0
欠損	1	3	2
その他	2	5	0
計	71	80	72

眼科

本年度の特徴

受診児の多くが、屈折異常や視神経の先天性異常による視機能障害を有しているため、身体的・精神的問題があっても積極的に眼鏡の装用を指導し視機能の向上を目指している。

ア 年間診療件数

19年度	20年度	21年度
516	564	529

イ 疾患別初診児数

	19年度	20年度	21年度
屈折異常	17	32	36
斜視	10	5	9
視覚発達遅延	2	3	2
眼底・視神経疾患	0	1	0
先天異常	1	1	0
眼振	1	0	0
結膜炎	3	0	2
眼瞼内反症	3	1	1
一般	0	1	1
その他	6	6	5
計	43	50	56

泌尿器科

本年度の特徴

二分脊椎、脊髄損傷等による神経因性膀胱は、まず上部尿路の機能温存が第一目的だが、患児の年齢が進むに従い膀胱尿管逆流や尿失禁の問題が複雑にからみ合い、治療を難しくしている。高校卒業後もひきつづき地元の医療機関などでのフォローアップが必要となる。

ア 年間診療件数

19年度	20年度	21年度
98	108	84

精神科

本年度の特徴

発達障害の患者が増加している。特に発達障害の中でも、注意欠陥多動性障害（ADHD）や、広汎性発達障害（自閉症、アスペルガー症候群）また、発達障害に情緒障害や不適応行動などの合併症が増加している。

ア 年間診療件数

19年度	20年度	21年度
1,919(191)	2,240(210)	2,306(140)

(): 新患数 再掲

(8) 薬剤部、臨床検査、放射線、地域連携室

薬剤部

本年度の特徴

年毎に外来の件数が多くなる傾向にあり、これに伴って剤数等も増加している。

ア 年間処方件数

	19年度	20年度	21年度
外来	5,445	5,724	5,202
入所	3,000	3,207	3,029
計	8,445	8,931	8,231

臨床検査

ア 年間臨床検査数

	19年度	20年度	21年度
血液・生化・血清検査	8,038	9,523	8,902
尿検査	3,544	4,231	3,667
細菌検査	368	307	400
電気生理検査	364	281	378
病理学検査	0	1	1
その他	47	33	65
計	12,361	14,376	13,413

放射線室

ア 年間撮影件数

		19年度	20年度	21年度
一般撮影	外来	2,403	2,280	1,966
	入所	449	686	828
CT撮影	外来	249	286	157
	入所	53	59	12
計		3,154	3,311	2,963

地域支援室

平成17年4月から設置（理学療法士・作業療法士・保健師で構成）

ア 肢体不自由児地域リハビリテーション支援事業

平成17年度から、地元の医療機関で継続した訓練が受けられるよう、理学療法士や作業療法士などが応援スタッフとして赴き技術支援を実施している。

実施地域	実施医療機関	登録者数(人)		実施回数(回)	実施人数(人)			
		理学療法	作業療法		理学療法		作業療法	
					実	延	実	延
相双	南相馬市立総合病院	8	9	24	8	64	9	59
	双葉厚生病院	10	8	23	10	111	8	94
南会津	県立南会津病院	5		23	5	62		
県南	埴厚生病院	9		23	9	105		
計		32	17	93	32	342	17	153

H19.7月から開始

イ 保健・医療・福祉相談

電話や面接形式で保健・医療・福祉に関するあらゆる相談を受けている。相談内容としては、在宅療養支援サービスの1つである「短期入所事業に関する相談」や「治療・訓練目的の入所（通所）相談」、「児の発達に応じて集団・個別療育施設の情報を得るなど個々に応じた療育支援を求める相談」などが多い。

これらの相談に対し、情報提供を含めた助言、及び児童相談所をはじめとした地域の保健・医療・福祉担当者と連携した対応を行っている。

なお、福祉制度や各種施設関係の資料を整備し保護者などが自由に持ち帰りができるようにしている。具体的な福祉サービス利用については各自治体担当窓口が対応している。

(件)

相談内容 \ 手段	電話	面接	計
短期入所事業に関するもの	145	115	260
措置入所・通所に関するもの	107	78	185
医療給付に関するもの	54	41	95
福祉制度に関するもの	69	27	96
療育に関するもの	105	78	183
その他	49	20	69
計	529	359	888